

年・頭・所・感

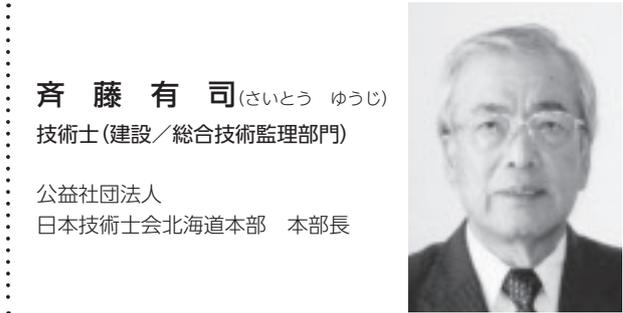
社会資本整備と 技術士の 役割について

明けましておめでとうございます。巳年がスタートしましたが、干支の占いに脱皮を想定した「復活と再生」という言葉が出てきます。何か生まれ変わり、新しい価値観が創造される年になりそうです。まさしく、昨年末に政権が変わり社会は経済の再生を柱に大きく動き始めました。また、社会資本整備については、中央高速道笹子トンネルの天井板落下事故を発端に全国のさまざまな施設の老朽化が問題となり、東日本の復興とともに防災対策に早急な取り組みを始めようとしております。一方、なかなか進まない東日本大震災後の復興事業についても、今後どのような方針で臨むのか？ 注目されるところです。1,000年に一度と言われている、巨大地震と津波。ずたずたに引き裂かれた家族と地域の絆。あの日(平成23年3月11日)からもう一年10ヶ月が経とうとしていますが、今なお32万人に及ぶ避難者がいると聞くと胸が痛みます。

日本は、戦後の社会資本整備を一度目とすると、2度目の成熟した社会資本整備の有り様という命題に、これまでと違った新しい価値観を創造し成熟した社会を目指して行く必要があると思います。そういう意味で、東日本の復興は、第2の日本の再興も視野に入れたものであるべきと考えます。

そのようなことを踏まえ、私達技術士は、社会資本整備とどう向き合うべきでしょうか。戦後の高度成長とともに整備されてきた膨大な社会資本のストックの高齢化にどう対処すべきか？ 人口減少や少子化に伴う税収減を念頭にどう対処すべきか？ 課題は多いと思います。

社会資本整備の目的は、先ず第1に、「国土並び



斉藤 有司(さいとう ゆうじ)
技術士(建設/総合技術監理部門)
公益社団法人
日本技術士会北海道本部 本部長

に国民の生命財産を災害から保護すること」であります。第2に、社会資本を経済的・効率的に維持管理していくストックマネジメント体制の確立です。第3に、少子高齢化や地球温暖化そして社会のグローバル化などの環境変化に対応する社会・経済環境の変化への対応と考えます。

これらの社会資本整備の課題解決において、科学技術を駆使し取り組む技術士の役割は重いと言わざるを得ません。防災対策においては、過去の地震津波の経歴の解析とともに、想定される災害の設定とハード面の対策に加え避難などのソフト面の対策の立案が求められましょう。また、ストックマネジメント体制の確立においては、アセットマネジメント(予防保全型維持管理)の必要性が、今一度見直されています。社会・経済環境の変化に対しては、エネルギーの安定的供給技術や、新エネルギーの開拓など、科学技術的課題は多いと考えられます。

今年は、9年ぶりに北海道において10月4日に「技術士全国大会」が開催されます。会員の皆様のお力を得て、地域の社会資本整備にける意気込みを全国に発信してまいりたいと思っております。会友の皆様におかれましても、是非この機会に会員になって戴き、北海道のため、地域のために力を貸してください。最後になりましたが、会員・会友の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。